

《コース専門教育科目 コース専門応用科目》

科目名	子どもの生活と権利				
担当者氏名	昇 慶一				
授業方法	講義	単位・必選	2単位・選択必修	開講年次・開講期	3年・秋期

《授業の概要》

まず、親子の法律関係や未成年者保護のための法制度を学ぶ。そのうえで、乳幼児期から青少年期までの子どもの生活と権利に関わる問題を様々な事例を通して取り上げる。その際、問題の所在を探り、それが子どもの権利とどのように関係し、その解決を図る際にどのような点に留意すべきかをレポート、意見発表、討論等を通じて考えたい。グループでの討論・発表の機会を多く作るので、主体的・積極的な参加が求められる。

《授業の到達目標》

現代の子どもが生活する上で、どのような問題を抱え、どのような人権上の課題を抱えているかを、様々な事例を通じて理解し、考察する。また、その問題解決を図る上での留意点を子どもの権利を尊重する立場から考える。

《成績評価の方法》

授業態度及び提出物（小レポート等） 30%
 期末試験 70%

《テキスト》

なし

《参考図書》

自作プリントや資料を適宜配布する。

《授業時間外学習》

子どもに関わるニュース・新聞記事に、日頃から関心を持つこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	オリエンテーション、権利・人権とは
2	家庭における子どもの生活と権利（1）：	親子の法律関係、未成年者保護のしくみ
3	家庭における子どもの生活と権利（2）：	親権及び親権者
4	家庭における子どもの生活と権利（3）：	児童虐待の内容と現状
5	家庭における子どもの生活と権利（4）	事例検討を通して児童虐待問題の重大性を理解する
6	家庭における子どもの生活と権利（5）	事例検討を通して児童虐待の防止と対応を考察する
7	学校における子どもの生活と権利（1）：	いじめの定義と構造
8	学校における子どもの生活と権利（2）：	いじめ問題の現状
9	学校における子どもの生活と権利（3）：	いじめ問題への取り組み
10	学校における子どもの生活と権利（4）：	体罰問題の現状
11	学校における子どもの生活と権利（5）：	体罰問題への取り組み
12	少年犯罪と子どもの権利（1）	少年犯罪の推移と現状
13	少年犯罪と子どもの権利（2）	少年法の意義としくみ
14	子どもの権利条約と日本における子どもの権利	子どもの最善の利益や意見表明権を中心に子どもの権利条約の概要を学び、子どもの権利をめぐる日本の現状を再考する
15	まとめ	講義全体の振り返り